

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（9・下）

—— 梁寿玉さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本 拓／高 誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (9) — Part II —
— An Interview with YANG Suok —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

ソウルから、木浦、済州島へ

《崔承喜と同じ船でソウルに》

梁：崔承喜^{*5}がちょうど終戦になった時に、男の子できたし、北京に居ったの。それでこの人が帰る時にね、同じ船でソウルまで帰ったわけ。それが46年。その時にはね、嬉しかったことが一つあるの。

私よく今でも友だちと会うとね、「私ね、崔承喜^{さいしやうき}と同じだったことがあるのよ」って言うと、みなびっくりするのよ。それはね、アメリカの貨物船なの。終戦後帰ったのが。ものすごい人数の。それで船に乗る時にね、私たちみな集結したのがね、塘沽^{タンク}のね、集結場所へ入れられたのが、日本の軍人の馬小屋だった。だから汚いやら匂うやらね。そこにみな集められて入れられた時に、私、初めて泣いた。ああ、国のない惨めさって

平成23年2月28日 原稿受理
大阪産業大学 人間環境学部

こんなものかって。それで船に乗ったでしょう。そしたらね、アメリカの貨物船、一番下の所、荷物積むところやね、広いわけ、船が大きいから。広いところへ、もう、ざーっと入れられてね、だれかれなしに、ぐちゃぐちゃ詰め詰めだね。

仁川インチョンまで来るんだけど、それでお昼、甲板に出たら崔承喜さいしゅうきと会うの。子ども抱いてね。それで見たら、崔承喜さいしゅうきはどっかの上のね、部屋に、ちゃんとした部屋に入ってる。これは嬉しかったね。崔承喜さいしゅうきもうちらと同じとこだったら悲しいやん。だけどそれだけ嬉しかった、ほんと。それで崔承喜さいしゅうきと同じだったって、私、言ってみんな笑わすけどね。それ仁川インチョン [で] 降りたでしょう。何って言うのかな、DDTって言うの、ばーっとね、消毒するわけよ。ほな、隣の崔承喜さいしゅうきも頭から真っ白、私も真っ白。私、崔承喜さいしゅうきと一緒にだわと思って〈一同：笑い〉。そういうふうにして帰ったけどね。ほんとにね、いろいろあったわね。

——どうして帰ることになさったんですか？

梁：それはもう終戦になったし、病院も、だから先生たちも。帰らない残った人っていうのは、何って言うの、私たちが言うパンパン、ああいうふうな人たち。私が船に乗る時もね、岸に立ってね、見送ってますわ。

——いつごろ、朝鮮に帰られました？ 仁川インチョンに帰られたのは何年の何月くらいでしょうか。

梁：私ね、帰った日にちも分からないのに、崔承喜さいしゅうきの本でね、見たらね、1946年の4月。私この人の踊りをね、ずっと見てたから、今どんな踊り見たってピンと来ない〈一同：笑い〉。

——それは中国でご覧になったんですか？ 日本で？

梁：北京で。

——船に乗る時に、お金とか荷物なんかは自由に持って帰れました？ それとも制限が何かありましたか？

梁：お金って言っても、お金は終戦なった途端にかわっちゃって。かわっちゃったから、ないわけ。

——とくにこれ以上持って帰っちゃいけないとか、そういうのはありませんでしたか？

梁：写真とか、いかんって言われたけど、写真なんかちょっと持って帰ったんじゃないかな。

帰ってからソウルで、何かしようと思ってね。そしたらね、ソウルでね鍾路4丁目。^{チョンノサジョンモク}
日本で言ったら銀座みたいな素敵なところにね、大きな映画館がね、もう映画館できなくなつて空っぽになつてる映画館があつて、あの映画館を借りて映画館を営業しよう思つて [団成社*⁶か?]

—え、すごいな。

梁：私が中国居った時に、旦那死んじゃって、一人でしょう。私はね、全然、クリスチャンじゃないの。全然信じられない。それなのに全部クリスチャンなの、友達。あの牧師さんだとか。何でもか言うたらね、信頼できると思ったから。普通の人なんかはもう、何を言うか分からんけどね。だからこの人たちといつても行動を共にしてた。ソウル帰つてもね、^{ヨンナクチョン}永楽町教会*⁷つていうところがね、今でもあるかないか分からないけど、教会に入つて。

それでその4丁目^{サジョンモク}の大きな映画館がね、営業しないで空っぽだったから、それを借りてね、あれしよう思つて。そしたら大学生がね、応援に走り回ってくれてね。映写機も準備したりね、いろいろ半分準備したりしてたら、今度はソウルでね、お金持ちの財閥の人たちが、お金たくさんあるんやね、持ってる人は。みんなお金を出すから言うて、申し込んで来るわけ。

—何と言う映画館でした、それは。

梁：え、そんなの忘れたけど。映画館^{チョンノサジョンモク}鍾路4丁目つて賑やかないい場所。そしたらその財閥たちがね、あれもこれもお金、出す出す言うてね、言い出してくるのよ。私にしたらね、嫌になっちゃった。あんまりお金を、出す出す言うてね。終いにはやっぱり女の人一人がやるいうことを、意識してるなという気がして。

《済州島に帰りたい》

梁：そうしてる時に、電信棒見たらね、映画の広告が出てるの。「三多島」。知ってます？

—知ってます。^{チェジュド}済州島。

梁：^{チェジュド}済州島。「三多島」の映画の広告が電信棒に貼つてあるの。それを見たら懐かしくつてね。見に行つたの映画を。女と風と石とね [済州島ではこの三つが多いと言われてる]。それを見たらいっぺんに、^{チェジュド}済州島に帰りたくなつたわけ。で、ぱつとトラ

ンク一つだけ持ってね、汽車に乗って、とにかく^{チェジュド}濟州島行って来てからしようって。

乗ったらそこで大学生二人と横に大学生一人が座っててね。角帽被って。ほんだらね、都度都度、食事時間に、汽車のところ〔食堂車〕に、食事に行くんだわ。行くのに、前の二人は都度都度、食べに行くのに、私も食べに行くんだけど、隣の子が全然1回も食べに行かないの。それでね、「あんたどうしてご飯食べに行かないのか」って聞いたたら、「お金、家から送ってくれないから、アパート代も払えなくて追い出されて、今度帰る旅費も友だちに借りて帰ってます」って言うから。そう、そんなやったら、この姉御肌がほっとくかいな〈一同：笑い〉。それから、ご飯食べる時にね、連れて行ってご飯一緒に何回も食べに行った。

それ^{モッポ}木浦着いたでしょう。そしたらこの学生にしたら、恩にきてるから、自分のところ連れて行こうとするの。でも私はそんな恩にきせてね、行きたくないわけ。だから、^{チェジュド}濟州島に出る近くのどっか安い旅館紹介して、言うて。それでその旅館にね、案内してもらって、旅館に入ったら、旅館の窓からね、船着場のところの広場が見えるわけ。その時から、^{モッポ}木浦事件*⁸。知ってます？

——^{テグ}大邱から始まった、デモのことですか？ 46年の10月。

梁：何か知らないけど、^{モッポ}木浦事件の始まり。その広場でね、警官隊に殴られたり、わいわい言うたり、拳銃持ったのがポンポン撃ったりし始めたわけ。それで、旅館に、何日間、意地張って居ったけどね、あれ見たらもう嫌になっちゃってね。

それでまた学生がね、ちょっと誘いに来るわけ。ほな、もうしょうがないから、船が出るまで行こう言うて。その学生の家に行ったんですよ。行ったら広い家で、部屋一つあてがわれてね。それで、離れにね、その学生の姉さん夫婦が住んでるわけ。そしたら、その姉さんは私より一つ上でね、二人で仲良く映画見に行ったり、ずっと楽しく住んでたわけ。なかなか船は出そうにないし。そうしてたらね、ある晩に、たたき起こされてね。後で見たらね、^{モッポ}木浦事件の首謀者、その姉さんの旦那というのが〈一同：えー〉。姉さん〔の〕ところの部屋の床下にね、いろんな武器がいっぱい隠してあったやつを、私を起してね、私が寝てる部屋の畳上げて、部屋の下へ全部武器を移動して隠すの。一生懸命手伝った、私も〈一同：笑い〉。

それからまた映画見に行ったりしてたけど、だんだん、ひどくなってね、あの事件が。そしたら、姉さんの旦那さんっていうのがどっかへ隠れた。首謀者だから。隠れたりしても、私は関係ないから映画見に行ったり。武器は一生懸命に下へ隠したけど。

ある時にね、初めて久しぶりに^{チェジュド}濟州島へ船が出るということになって。「やれやれ、

じゃあ、私それで帰るわ」ということでね。その船ね、行くのに、その姉さんと親しくなっていたから、その姉さんにね、「姉さん、旦那をな、私と夫婦にしてな、連れ出すから、私と夫婦に似合うような格好させて、波止場へ連れて来なさい」って言ったの。なかなかね、恐いからそんなことようせんわな。それで「ああそう、じゃあ、そないしてくれる」言うて。

それでね、私のその格好が、私のスタイルが全然向こうの人と違うわけよ。天津ではね、すごくお洒落してたから。毛皮のコートでね、今でも覚えてるわ。靴はね、蛇皮の靴でね、赤とグリーンと何やら色混ぜのを合わせたような洒落た靴を履いてたし。それで髪の毛もね、何やら、ちょっと洒落た髪の毛でしょう。それで、トランクもなかなか、向こうにはない素敵なトランクを持ってたでしょう。誰が見たって洋行帰りに見えるわけ、私は。それで、姉さんに言うて、とにかく波止場に出たわけよ。そうやね、ここからこの駅までね、細い一人で通れるくらいの間を置いて、両方にね、警官。ざーっと、並んでるのよ。船まで。ああ、そうか、そうかと思ってな。しっかり並んでるなと思ひながら、切符は二つ買うて。

それでちょっと行ったら、それまでその旦那は出てこなかったけど、入り口行ったらね、ぱっと横へ来たの、旦那が。見たらね、ほんと、私と似合いの格好させて出せ、言うたらね、茶色のコート、後ろバンド付けた、モダンなオーバー着て。その揃えの帽子被って、サングラスかけて。もう間髪入れずにね、私はバーっと怒鳴ったの。かかあ殿下丸出しや。「もう、^{멍신} [あなた]、そこでぼやぼや何してるんだ、早くこの荷物持って、船行って場所取らないと座る場所ないのに、早く行って場所取りなさい」言うて、ぐあーっと怒ったらね、みんな私の方注目して、その男の方見る暇ないねん。変わった格好してる女だし、えらいかかあ殿下だと思ったんじゃない。

—すごいな。

梁：^{빨리}「 빨리 [早く] この荷物持って、場所取らないと座る場所ないのに、何ぼっとしてるんだ」って怒鳴ってね。それでね、トランク持ってしゃっしゃーっと船へ行ったし。私は、切符渡して。それで船乗ったら旦那がどこに行ったか分からない。と言うのは、ボーイたちにも連絡して、どっかで隠してしまった。それで入り口にトランクだけ持って私、^{체슈드}済州島に帰った。それで無事にその男助けた。

—名前分かりますか、その人。

梁：分からない。そんな名前聞いたりしなかったし。

《3・1節大会》

——^{チエジュ}濟州^{モツポ}に木浦事件の首謀者の人と戻って、その後、どうされたんですか？

梁：^{チエジュド}濟州島へ帰って来て、そのまま居ったとしたら、私は今ごろ、いてないわ。あの世へ行ってらるわ。もう、[戻って] 来たら、やっぱり昔のグループなんかは措いとかないわね。

そして、^{サミルチヨル}3・1節に参加して、^{サミルチヨル}3・1節大会^{⑧-＊9}も終わってね、^{チュンムン}中文に帰ろうと思って、その場を離れてちょっと来たら、パンパンって拳銃の音がしたりして、それが^{ササムサコン}4・3事件の始まりになったわけ。それで^{チュンムン}中文に帰って来て、まだ何も、これと言って何もしたことがないのに、^{ソンネ}城内^{④-＊4}の裁判所からね、あの時はね、自動車^{チエジュド}がなかった、濟州島。自動車ない時にね、裁判所にね、弁護士だとか検事だとかいう人たちが親しかったの、私ね。^{ソンネ}城内行くといつもね、一緒に食事したりしてて。そしたらある晩にね、あれは検事かな、検事が弁護士か、どっちかがね、夜中にね、^{ソンネ}城内から^{チュンムン}中文までと言うと、一番北から南、大変なのよ、車で、知らせに来たの。夜が明けたら、^{チュージェソ}駐在所から逮捕されるから、夜が明けるまで、どっかへ行くように。

それで、「ああそうかな」と思って、それで言うた[言われた]とおりに夜が明け、暗いうちにね、^{ソギボ}西帰浦へ来た。それ^{ソギボ}西帰浦の停留所のところに出てみたら、トラックがいっぱいあって、逮捕された人たちがトラックにいっぱい積まれてた。あの時にね、^{チエジュド}濟州島帰った途端にね、^{ソブクチョンニョン}西北青年^{⑧-＊3}、悪い、悪かったね。^{ソブクチョンニョン}西北青年。もうね、^{チュージェソ}駐在所へ連れて行かれて、どれだけ拷問を受けてるか。もう、とにかく、あの声。殺されるような声が聞こえるわけよ、外まで。それで私は裁判所から夜中に知らされて、夜明け前に^{ソギボ}西帰浦行って、それ^{ソギボ}西帰浦で、ちょっと居って。

知ってる女の人がね、結婚して間なしに旦那が日本に来てね、「日本人の、日本の女と一緒にあって、[濟州島に] 帰って来ない」って言うて、「それでその人[旦那]のところに行きたいんだけど、自分一人では行けないから、姉さん一緒に行こう。自分が全部準備するから姉さん、来るだけ来たらええ」言うて。それで、もう簡単なもんや。「そう、そしたら[私も] 行こうか」言うて。それで着の身着のまま^{ソンサンポ}城山浦の海辺、小さな船だった。それに乗って、密航で。それで日本に来た。日本に来て、それで、助かったわけ。

——日本に来られたのは^{サミルチヨル}3・1節のすぐ後なんですか。

梁：^{サミルチヨル}3・1節のすぐ後。^{ササムサコン}4・3事件の前だわね。^{ササムサコン}4・3事件まで居ったら、私は捕まってる。えっと、日本に来たのは、31歳。これか、47年やね。

——47年のいつごろか、覚えてはります？ 船乗った時、暑い時？ 寒い時？

梁：いや、寒くもなかったね。簡単な服着てたから。そんなに防寒用じゃない。

——秋ぐらい？

梁：秋かなあ。31歳、…（間）…、^{ササムサコン}4・3事件^{ササムサコン}って言うのが4月3日でしょう。その前、だから春かな。^{ササムサコン}4・3事件^{ササムサコン}。3・1節^{ササムサコン}過ぎて、^{ササムサコン}4・3事件^{ササムサコン}の前。4・3事件……、今考えると、その裁判所のあの人もね、一つのお礼もできないで、あの世行って会えるかな。一つも恩返しができないでね、胸痛い。あの人もみな、死んだと思うわ。

——どうして城内の^{ソンネ}3・1節^{サミルチヨル}の大会に行こうと思ったんです？

梁：それはもう、活動家が、みな動員しますやん。

——それはどういう団体、組織から？

梁：そういうふうな組織とかじゃなくて。ただ^{チュンムン}中文^{チュンムン}にもいろいろ……あるでしょう、^{キムハンジョン}金漢貞^{キムハンジョン}先生の、つてで。帰った時は^{キムハンジョン}金漢貞^{キムハンジョン}先生、何か、陸地へ出しな、船で亡くなったとか、何か。息子さんが一人おったけど。

——^{チュンムン}中文^{チュンムン}では、あの^{サミルチヨル}3・1節^{サミルチヨル}の集会はなかったんですか？

梁：ないから城内^{ソンネ}まで行ったんじゃないかな¹⁾。

——何人くらい一緒に城内^{ソンネ}に行きました？

梁：もうそんな団体で行かない。いつも一人で。

——^{チェジュド}済州島^{チェジュド}に帰って来られてからは、どこに住んでおられました？ お母さんの実家の方におられたんですか？

梁：そう。お母さんの実家と、死んだ旦那^{ピョソン}は表善^{ピョソン}いうところ。戦後帰って来て表善^{ピョソン}に帰ったらね、ダイナマイトがね、ものすご、はやってたの、^{チェジュド}済州島^{チェジュド}で。

——漁業、魚捕るので？

梁：魚捕るのに、ダイナマイトがはやっててね。表善^{ピョソン}の死



図4 金漢貞の墓
(西帰浦市中文洞天帝淵路)

1) 実際には中文でも中文国民学校で記念式典が実施された。

んだ旦那の妹がね、陸地に行って、ダイナマイト買って来て。なんか儲かるんじゃないの。それで売ったかしてね。私がちょうど帰った時にね、それがばれてね、^{モスルポ} 募瑟浦の、^{チュジエン} 駐在所からね、呼び出しが来てたの、妹に。呼び出しが来て、行ったら、留置所入れられてね、拷問受けて、出られないわな、あの時は。それで、ちょうど心配する、最中だった。それでその私が^{モッポ} 木浦であの旦那を連れ出すみたいにな、妹に「そしたら、あんな、姉さんが買^ニうて来たって言いなさい」って言ってね、私が買^ニうて来たことにする、言うて。

——ダイナマイトを？（笑い）

梁：引き受けてね。私が行くわけ、^{モスルポ} 募瑟浦の^{チュジエン} 駐在所へ。その時初めて^{ソククチョンニョン} 西北青年いうのんと遭^オうた。^{チュジエン} 駐在所に入った途端に、あの拷問受けた[人の]「もう、殺される、こうやこうや」って[声を]聞きながらね。

したらね、「何か買って来たか」って言うた[か]ら、^{モッポ} 木浦来たらね、それ^{チュジユド} 濟州島に持って行ったらものすご儲かる言うてね、これでお魚捕るんや言うてな。したから私もな、買^ニうて行くわ言うて、買^ニうて来たんや、言うたら、通ったのよ。なんでか言うたら、私の格好見たら、外[外観]がええ言うのが、その時までまだ、ね。あはは、^{モッポ} 木浦でも、それで通ったけど、^{チュジエン} 駐在所行った時も、ヘアスタイルも服も違うじゃない、履物から。それで通って。それで妹も助けて。

再び日本へ

《密航》

梁：結局、その誰かに、日本に旦那が[いるのでその] ところに行きたい、言うてね。船も紹介して[くれて] ^{ソンサンポ} 城山浦から船に乗って、日本に来てね、それで風邪引いたか何かでね、[大阪・生野区の] 一条通の近くのね、小さな医院に薬もらいに行つてね。靴脱いで、入ったら、出て来たら、その靴取られて、ないわ〈一同：笑い〉。珍しかった、蛇革でね。洒落た、いろんな色で作った。だから、その病院から出て来たら、靴ない。取られた。



図5 城山浦

——^{ソンサンポ}城山浦から日本に行く時の船はどうやって探しましたか？

梁：その旦那が帰って来ない、いう人は、日本語も分からないし、日本、初めてで。私を誘ったら大丈夫だろうって。その人がみな手配して、案内してくれて。

——：お金は渡しましたか？

梁：いやー、お金は、そんなの、関係ないな、あの人がみな手配したから。

——で、日本のどこに着きましたか？

梁：日本のどこかな。大阪じゃないわ。どこかへ着いて。それで、私は、何か着の身着のままだったけど、簡単なズボンと上着と着て。それでヘアスタイルは、まだその時はそんなんで、それで化粧道具持って、船から下りてその女を連れてね。したらね、[一緒に船に乗ってきた] 半分は、捕まったみたい。私はね、この人連れてね、堂々と歩こう言うて〈一同：笑い〉、大通りね。それで私の格好がまた都会向きだったんでしょ。格好で助かった。堂々とね、街中歩いて駅で、汽車乗って大阪へ来た。だから、その女にも、私も途中でちょっと化粧して。だから〈一同：笑い〉、密航で来たように見えない。

——じゃあ、大阪では最初どこにお住まいでしたか。

梁：大阪ではね、知ってる人が、いっぱい居ったからね。死んだ旦那の、従兄弟もね、割といい生活して、そこへ来て。

——それはどこですか。

梁：それはね、どっか鶴橋の本通だったと思うわ。鶴橋の本通のね、大きな家で。

《日本での再婚》

梁：10年間一人で居って、それで日本に来たらね、ただでは措かないわな [周りの人が放っておかない]。この人とこの人が会ったらええわって、決めてくれてね、再婚させられてね。この人 [梁さんの長女] のお父さんという人が、朝鮮の組織の活動家いう人でね。お金は一銭も収入ないけど、人間的に紳士だったわ。私もね、ちょっと変わっててね、何か事業家で、じゃんじゃん商売してお金でもたくさんある人だったら、人間的にね、あんまりあれじゃなかったら、辛抱してないかも分かんないけど。お金はなかったけど、まあまあ紳士だった、人間的に。

だから、ずっとそれから何か下手な服を作ったり、何か商売したりしてね。まあ何とか今まで。だけど、わりと他人に愛されてきてる、私は。親類はないけど。友だちなんかも、たまに^お会うたら、「ああ、時間ある、コーヒー飲みに行こうか」とか、「じゃあ、1泊でどっか行こうか」とか、「何か趣味に合うの見に行こうか」とか言うてね、してた友だちみな死んじゃった。私が90まで長生きしてね、善し悪しだわ。このごろ、だからものすご、寂しい。

——大阪に来られてから、どういう生活をされてたんです。

梁：あー、あんまり自慢にならない生活。あははは。だから、私はね、欲のない人間だし、割と平々凡々だから、アボジ [夫のこと] はね、活動家やからお金が一銭もないわけよ。
総チョンリョン連の活動家で。

ほんでね、鶴橋でね、駅前の小さなところへね、今はみな、シャッターだけど、昔はこの戸、戸を外してあっちやったり。それでね、みかん箱みたいな二つ、置いて、戸を外して、こう置いて。お金がないからね、売る品物もないし。だからよその店へ行つてね、キャラコ、5メートル貸してちょうだい、10メートル借りたりして。それを売って、なんぼかもろて、それでお金返して。そういうふうにして商売始めた。ちょっとお金たまってきたら、今度自分で生地仕入れたり、何か作ったりして。

——ハルモニ [梁さんのこと]、再婚したのは、いくつの時ですか？

梁：32で再婚して、それでこの人 [長女] ね、33でできたか。

——お歳は全部数えですね？

梁：数え。だからね、逃げて、日本に来たでしょう。日本に来てね、私は、あの、再婚なんて考えてもしなかった。

幼いころの思い出

《アボジのこと》

梁：うちのお父さん、いう人はね、一緒に住んではいけないけど、私生まれて母方のお祖母ちゃんに預けたもんだから、お父さんの方へは全然、行かなかったから知らないけど。ものすごい有名な漢学者。なんて言うの？ 寺子屋みたいな所でみんな座って……。

——^{ソダン}書堂^(6)*12)の先生。^{ア ボ ジ}お父さんのお名前はなんとおっしゃいます？

梁：^{ア ボ ジ}お父さんはね、あの、^{ヤンキョンファ}梁京化。^{ボプファンリ}法還里の^{ヤンキョンファ}梁京化いうて。

——^{ボプファンリ}法還里？

梁：それで、小さい時には^{ア ボ ジ}お父さんとこ行ったけどね、とてもきちっとしないと注意された。厳しかった。だから、中国で、いろんな人が、誘いに来たり何かしてもね、私は、どこの牛の骨か、馬の骨、私ね、あれしてた。^{チェジュド}済州島では、ほら、^{サンノム}상놈（常奴）言うてね、^{シンバン}심방（神房）だとかね、^{シンバン}神房だとか、何だとか、よう言うでしょう*9。そういうふうな精神で固まってたね、私は。

——^{チェジュド}済州島で、^{ササム}4・3が起ったというのは、^{オ テジン}どういふふうにして知られましたか？

梁：ああ、それはね、日本に来て、^{ウンバン}呉大進*10、^{ウンバン}運芳*11。

——あ、^{イ ウンバン}李運芳さん。

梁：^{ウンバンソンセン}運芳先生。^{オ テジンソンセン}呉大進先生。みな、うち一条通に家に居った時、うちに来て居った、^{ウンバン}うん。だから、あの人も、事件の前に、私が早く[日本に]来たけど、その後で、^{ウンバン}運芳先生、^{オ テジンソンセン}呉大進先生、みな、来た。

——それはじゃあ、ハルモニ[梁さんのこと]が前からお二人を知ってて、訪ねて来たってことですか。

梁：^{オ テジンソンセン}呉大進先生、^{ウンバンソンセン}運芳先生は^{モスルポ}擘瑟浦なの。それで、^{キムハンジョン}金漢貞先生は^{チュンムン}中文で指導してた。だけど、先生たちのみなグループだから、みな分かるわな。だから、あの時は本当、^{ウンバンソンセン}運芳先生は、^{オ テジンソンセン}呉大進先生はどうしたんかな。日本で死んだんじゃないかな。息子と娘は北に行ったし。

——^{オ テジン}呉大進先生はずっと大阪に居られて、大阪で亡くなったというふう聞いてるんですが。

梁：そうそう。

——^{ササムサコン}4・3事件の亡くなった方の慰霊祭が、大阪であったと聞いてるんですが、慰霊祭ご存知ないですか？

梁：慰霊祭、大阪。もう、それはずっと前の話でしょう。

《心に残る漢拏山登山》

梁：私ね、^{チェジュド}濟州島でね、^{ハルラサン}漢拏山登山したのをね、ちょっと自慢したいねん〈一同：笑い〉。
ものすごい登山したのがね、印象に残るの。12歳で帰ったでしょう。それからね、うちのお母さんのね、^{オモニ}兄さんという人がね、^{チェジュド}濟州島ではね、農繁期が過ぎるでしょう、忙しい時、馬や牛を全部、農業に使うわけ。それで農繁期が過ぎたら、島だから、放し飼いにするの。そしたら牛や馬がどこ行くか分からないやん。それで、今度また農業するようになって、要るようになったら、牛や馬を探し歩くわけ。それをどうして分かるかって言うとね、牛や馬のね、このお尻の所をね、ぱんとね、火傷みたいにして、印を付けるの。その印で、^{オモニ}牛か馬を探し歩くの。うちのお母さんの、^{オモニ}兄さんという伯父さんがね、それをずっと探すから、^{ハルラサン}漢拏山の地域とかを知ってるわけ。

それで、その伯父さんともう一人のおじさんと、それからお姉さん一人と、私と、私ぐらいの男の子一人と、5人で、木の実、取りに行くわけ。その木の実言うのは、^{トゥル}툼 [ヤマボウシ]、トゥルっていう木の実。おいしいのよ、それが。採ってきてね、みな売ったりするんだけど、それを取りに行くのに、一晩泊まって行くから言うて、1泊2日で山へ木の実取りに行くわけ。

そしたらね、うちのお母さんが、^{オモニ}伯父さんに行くから大丈夫やろうけど、^{チェジュド}濟州島の山はね、^{オモニ}恐い猪やなんか、そういうのがいないのよ、それで、うちのお母さんがね、おにぎりとかね、作ってあげるからって、ご飯を炊こうとしたらね、[伯父さんが]「いらん、いらん」言うてね、「水も食べ物もいらん」言うてね、何も持つな言うの。それでね、石油の空き缶だけ、籠に入れて背負って行け、言うの。「食べ物、何も持つな」って言うの。それで、一晩泊まるのに、そのまま、行った。山へずっと歩いて行きながらね。とにかく、^{チェジュド}濟州島ね、^{チヨンジェヨン}天帝淵って川の両側にも、いろんな木の実があるのよ。だから、水汲みに行ったら、木の実採って食べ[るから]、夕方になるねん、私〈数名：うーん〉。

それでね、^{ボルレ}볼레 [ボダイジュの実] っていう、黒いね、こんな小さなの、おいしいのよ、それが。それをいっぱい採って食べたらね、唇がくろーくなって〈一同：笑い〉。それでね、「いや、もう何も持つな」言うてね、^{ハルラサン}漢拏山。

ずっと登って行くわけ。そしたらね、村外れ、ずっと行ってね。行ったらね、今度、木がね、いっぱい茂っててね、^{ハヌル}空が見えない、そんなところ。一生懸命見たってね、空が見えないのよ、木が茂ってて。そんなとこ、ずっと行ったらね、伯父さんがね、「さあ、みな、その背負った籠を置け」言うて。置いてね、伯父さんが今度、木の上、上がって、「実を落とすから皆食べ」って言うの。それで伯父さんが高い木の上登って、わーっと揺す

ったら、こんな木の実、ヤマボウシ^{トマッポウシ}言うてね、雨降るみたいにはば一と落ちて、おいしいのよ、それが。なるほどな、と思った。一生懸命に拾って食べた。「もうそのぐらいで止めろ」って言うてね、「また次のおいしいのがあるから止めろ」って言うて。

それでもうちちょっと行ったら、今度また、「ここへ入り」言うてね。そうやね、こんな入り口から入ったらね、10畳ぐらいの部屋になってね、蔓でね、部屋になってるの。それで、^{チョルゲンイ}졸갱이 [アケビ。존갱이, 종갱이ともいう] 言うてね。何て言うの、日本語で？バナナの皮を剥いたみみたいな実があるの。

——アケビ、アケビ。アケビじゃないですか？

梁：もうとにかく、バナナみたいやけど、こう、半分皮がこう捲れてる。部屋へ入ってまた、ば一と採って食べて。「それもそれぐらいにせえ」言うて。伯父さんな、「もう、あまり食べるな」言うて。「また次」。そういうふうにしてね、^{ハルラサン}漢拏山^{ハルラサン}ずつーとね、登って行くわけ。それで、伯父さんが言う通り、「これ食べ」「あれ食べ」言うてね〈一同：笑い〉。拾って食べながらやったから、お腹いっぱいになったし。

ずっと行ってたらね、岩がね、たくさんあるのよ。大きい岩がこうあって、上が平べったくなってるの。なんかこの上、上がって遊んだらええな、思いながらこうして見たらね、岩の上にね、小さな石がね、ちょこちょこちょこ並べてあるのよ。見たらね、自然になってるんじゃないで、誰かが置いたような置き方してるのよ。だから私がおかしいわねえ、こういらおう [触ろう] としたら、伯父さんが「あ、いろたら [触ったら] ダメ」って怒るわけ。それで聞いたら、こんな大きい平べったい岩の上に石並べたのがね、道しるべ。山へ来て、道迷った時に東西南北とか、どこがどこか分からんようになった時に、分かるように。それ、道しるべで、石並べてあるんだって。それで、それいらうな [触るな]、言うて、私がちょっといろた [触った] 石を、伯父さんがまた丁寧に変えて〈数名：うーん〉。

それでまたね、私また感心したの。^{チェジュド}済州島^{チェジュド}って、すごく人情があるなあって思いながら、山登りしたの。それからまた、とほとぼ登って行って、上のとこまで行くわけ。だんだん山の近くへ行くとね、木がね、だんだん小さくなる。それで、ずっと行ったらね、^{オベクチャンゲン}五百將軍^{オベクチャンゲン} [漢拏山の頂上西側の景勝地。棒状の巨大な岩石が林立しているためこの名がついている] と言うの、聞いたことあるねん。^{オベクチャンゲン}五百將軍^{オベクチャンゲン}、聞いたことありますか？

——ある、ある、あります。行きました。

梁：ほんと、^{オベクチャンゲン}五百將軍^{オベクチャンゲン}っていうところはよく聞いたことがあるけど、行ったことはないわ

ね。それでね、寝るところがオベクチャンゲン五百將軍の側だって聞いて。で、行って。

もう夕暮れやからね、「ここで寝るんや」言うてね。行ったらね、この家ぐらいあるかな。こんな大きな岩があって、洞穴があって、この部屋より広かったん違う？　そこでまた、私、感心したのがね、入り口にね、電信柱みたいなこんな太い木がね、4、5本ずっーとね、頭がその中へ入って。その下にはね、細い木、枯れ木いっぱい置いて、それから、また下には松の葉、枯れ葉、それいっぱい置いて。横にマッチもちょこっとあるし。それでうちらも入って。

伯父さんがね、パッとマッチで火を点けたらね、夜通しね、焚くわけ、焚き火。その電信柱で、みんな燃えないわな。それで、枯れ木とかね、そういうふうなのをね、みな燃して、松の葉っぱもみな落として。伯父さん二人言ったのはね、一人ずつ入り口に座って、番するのよ。寝ずの番、ね。一人は寝て、一人は交代して、入り口座って。今はそういうことできる？　できないでしょう。それでうちらは堂々と中へ入って寝て、もう薄々夜明け方になったら叩き起こされて、「さあ、元通り、また次の人が困らないように、元通りこれ集めて来い」言うて。それでね、夜寝ながらね、サラサラサラサラね。小川が流れる音をずっと聞きながら、ずっと一晩寝てたの。

それで明け方、外へ出てみたら、その寝てる岩の横に、細い小川がチャラチャラ流れてて、その上がね、たかーいね、こなーいせんと〔このようにしないと〕見えない岩のね、絶壁があって、その絶壁の上がいろいろな形になって、將軍が帽子かぶって、馬に乗ってるみたいな形やとかいろいろな形になってるの。「はー、なるほどこれオベクチャンゲン五百將軍の姿だな」と思ってね。ほんと、よいの見た。それでこう見て、見とれてたら、伯父さんが「ぼーっとせんと、早く焚き木拾って来い」言うてね〈一同：笑い〉。

それでうちら子どもらは、細い枯れ木をね、あっちこっち行って一生懸命拾って来たし。私も、枯れ葉、一生懸命集めて来たし。伯父さんたちはまた大きなね、太い木を、どっからか〔どこからか〕ね、枯れ木がいっぱいあるのよ。いっぱい持って来て、並べて、マッチもちょっと置いて。飢え死にしそうになっても、ここへ入って来たら、夜通しでも焚けるように、ちゃんと準備して。だからね、山へ木の実取りに行って、ものすご、チェジュド濟州島の人情味をね、味わって、とっても感心した。

翌日は、ぼっつらぼっつら、また高い方へ上がって行くの。高い方へ高い方へ上がって行くと、今までは伯父さんが、大きな木の上で、ばーっと振って、雨降るみたいに実を落としてくれて食べてたけど、だんだん上がって行くとね、だんだん木が小さくなって、こうして採って食べられるの。みな実が上向いてるの、ハルラサン漢拏山近くなったら。ヤマボウシトウって言うの。もう、おいしかった〈一同：笑い〉。それがね、みなちゃんと

茎が上向いてるの。こうして採って食べられるの。小さくなって、木が。それでね、あんまりおいしいから、ちょっと採ってカンカン [缶] に入れよう思ったら、伯父さんが、「入れるな、入れるな」って言うの。「いや、もう、こんなおいしいの」。「そんなん、入れるな」。「伯父さんが入れ、言う時に入れ」言うてね。そういうふうにしてね、漢拏山^{ハルラサン}ね、済州島^{チェジュド}の人情味、そういうふうなのを味わってね。

それがいつまでも、私、残ってる。石 [岩] の上の石、石の置き方だとかね。それで今度、翌日、さんざんお腹いっぱいになって、帰りしな、また伯父さんが「採って帰ってええ」言うのは、青い実、固い実を採って入れる、言うの。柔らかい、おいしいのは持って帰ったら、ベチャツとなってダメだって言うの。それでその固い実をまたカンカンに入れて、それで帰ったの。すごく、思い出。

—あの、持って帰った青い実はヤマボウシの実ですか？

梁：あ、それはね、持って帰ったら、ちょうど食べごろになるんです。

—それは売るんですか？ 家で食べるんですか？

梁：売らない、売らない。家で食べる。だからね、木の実がね、ボダイジュ^{ボダイジュ}の実言うの、野原に出たら、ボダイジュ^{ボダイジュ}の実。それで、삼동^{サムドン} [クロイゲ (クロウメモドキ科)] っていうのは唇が黒くなるの。딸^{タル} [イチゴ]、ヤマボウシ^{ヤマボウシ}、아케비^{アケビ}、いろいろな実があるの。

* 本研究は科学研究費補助金（課題番号 21510253）の助成を受けたものである。

【用語解説】

* 5 ^{チェスンヒ} 崔承喜

1911年、ソウルに生まれた舞踊家である。1926年に日本の現代舞踊家石井漠の公演を観覧し、日本に渡って石井の門下生となる。1929年に独立し、ソウルに舞踊研究所を作る。崔承喜を一躍有名にしたのは1937年から2年間に渡って行われたヨーロッパ、南米での巡回公演である。オリエンタリズム的まなごしを向ける西洋人に崔承喜の舞がエキゾチックなものとして受け止められたためであったが、一方で彼女に冠された「東洋の舞姫」という評価は、当時植民地支配を受けていた朝鮮の人々には、希望の星でもあった。1944年からは活動の場を中国へ移し、解放とともにソウルに戻ったが、南朝鮮の政治的

混乱を逃れて北朝鮮へ渡った。その後「崔承姫舞踊研究所」を設立し多くの舞踊家を育成すると同時に、「朝鮮舞踊の基本の舞」を考案して北朝鮮での舞踊体系化に尽力した。後に夫と共に粛清され、1968年に死亡。

* 6 ^{タンソンサ} 団成社

ここで梁寿玉さんが言及しているのは、現在まで続く映画館としては最古の「団成社」(1907年開設)のことと思われる。ただし団成社の所在地は正確には現在の鐘路3街(当時3丁目)である。1939年から敗戦までは日本人が経営し、名前も「大陸劇場」(1946年はじめに再び「団成社」とされていた。梁寿玉さんがソウルに滞在していたと思われる1946年4月から10月ごろの時期には、日本人の経営によっていたため「敵産」とされ行政の管理下におかれた映画館の払い下げが争点になっていた。芸術関係者などは、映画館は芸術家の手によって運営されるべきであると主張したが、米軍政下の京畿道敵産管理課は「学力・経験・経済状態」を条件とした入札により貸与することとした。その結果、植民地期に日本人経営者のもとで働いていた朝鮮人が映画館経営にたずさわることになった。一連の動きは、劇場払い下げのほか配給体制確立や検閲によって宣伝媒体としての映画上映システムを掌握しようとした米軍政と、朝鮮人芸術関係者との対立によるものである。梁寿玉さんの試みとその挫折も、どのような立場での関わりであったかは明らかではないが、このような状況と無関係なものではなかったであろう。

* 7 ^{ヨンナクチョン} 永楽町教会

大韓イエス教長老会に属する「永楽教会」^{ヨンナク}を指すと思われる。1945年12月に北朝鮮から「越南」した著名な牧師韓景織らによって、ソウル市の「永楽町」(現在の中区苧洞)で「ベダニ(ベタニア)伝道教会」として設立され、翌年長老会に加入する際、当時の例にしたがって地名をとり教会名とした。越南したキリスト教徒を吸収するなどして急成長し、純福音教会とともに巨大教会として有名である。また反共的な教会としても知られ、特に1946年2月に結成された永楽教会青年会(当初はベダニ青年会)は西北青年団などとともに反託運動・反共運動などに参加した。

* 8 ^{モッポ} 木浦事件

木浦でも解放直後につくられた人民委員会は米軍政によって否定され、左右の対立が45年11月ごろから激しくなった。そのため米軍政や右翼勢力による弾圧は46年初めからつづき、それに左翼勢力は9月ゼネスト、10月人民抗争で対抗したが、木浦では10月

31日には左翼勢力による警察署襲撃や大規模デモがおこった。米軍政は軍と警察を動員し、11月1日には木浦に戒厳令が敷かれ、首謀者に対する大々的な検挙が行われた。11月13日には「騒擾の総指揮者」として宋在慶が光州で逮捕され、48年12月にはソウルで金東洙ほか12名が逮捕された。

*** 9 상놈・심방**

「상놈（常奴）」は「양반」と対で使われ、相対的に低い地位を表現し、「심방（神房）」は済州のシャーマニズムにおいて神霊と人とを仲介する役割をする職業である。どちらの言葉も儒教的な秩序意識からは他人を低く見るニュアンスを持つ。つまりここでの発言内容は、さまざまな人から誘いを受けても、身元の明らかでない場合は相手にしなかった、それは儒教的な教養をもち書堂の指導者であった父の影響である、ということと考えられる。

*** 10 오대진 吳大進**

1898年大静邑生まれの独立運動家・社会主義者。*2の金漢貞とはいとこにあたる。1925年慕瑟浦青年会を結成し、その代表として済州青年連合会を組織し金漢貞らとともに執行委員となる。1927年朝鮮共産党入党、同年労働者親睦会事件により逮捕される。1928年慕瑟浦のボタン工場争議などに関わる。1931年金漢貞らとともに済州島ヤチェーイカ結成、吳大進は大静邑・安徳面を担当する。1931年海女闘争を支援、1932年に逮捕され、1933年治安維持法違反により懲役4年の刑を受け服役する。1945年の解放後は建国準備委員会済州島委員長となる。1947年には3・1節記念大会後のゼネストを指導するが、1949年日本に渡り、1979年に死亡するまでとどまった。

*** 11 이운방 李運芳**

大静面下幕里出身、1907年生まれ。植民地期には少年組織を指導し、日本で工場労働者として働いた経験ももつ。解放後に大静面人民委員会宣伝部長、1946年から南朝鮮労働党大静面責となる。1947年の3・1節記念集会では、大静面集会の司会をつとめる。その直後に逮捕され、10カ月の刑を受ける。48年3月ごろ釈放され、1949年4月ごろ日本に渡った。その後1979年に済州へ帰郷し、4・3事件を語る事がタブー視されていた時期に、かつての左翼活動家として自らの体験を語ったほとんど唯一の人物である。彼の証言は、4・3事件の真相究明を進めるうえで貴重な資料となった。